

「主が命じたことを守らなかった」
サウロの生涯 I
サムエル記第一 13章8節～14節

はじめに

イスラエル最初の王になったのは、サウルでした。サウルの生涯で目立つのは、失敗です。そのことから、私たちの信仰生活のあり方を学びましょう。

中心聖句「愚かなことをしたものだ。あなたは、あなたの神、主が命じた命令を守らなかった。主は今、イスラエルのあなたの王国を永遠に確立されたであろうに」(13:13)。

1 サウロ。

サウロの生い立ちと、君主に選ばれるまでのことを見てみましょう。

(1) 生い立ち。

ベニヤミン人キシユの子とあります。ベニヤミンは、ヤコブとラケルの間に生まれた末っ子でした。その子孫であるベニヤミン族は、自分たちのした恥ずべき悪で、イスラエルの他の部族を敵に回し、600人を残すのみにまで、滅ぼされました。

そのような悪い過去を持つベニヤミン族から王となる人が選ばれたのです。彼は「美しい若い男で、イスラエルの中で彼より美しい者はいなかった。彼は民のだれよりも、肩から上だけ高かった」(2)。

(2) サムエルから油を注がれる(10:1)。

父の命令で雌ろばを捜しに出かけたサウロは、サムエルに会います。サムエルは、サウロが来ることを神から示されていたので、サウロに「全イスラエルの思いは、だれに向けられているのでしょうか。あなたと、あなたの父の全家にはありませんか」と言います(9:20)。

それに対してサウロは、「私はベニヤミン人で、イスラエルの最も小さい部族の出ではありませんか。私の家族は、ベニヤミンの部族のどの家族よりも、取るに足りないものではありませんか。どうしてこのようなことを私に言われるのですか」と答えます(21)。

やがて、サムエルはサウロをひとり呼び、その頭に油を注ぎ、彼に口づけをして「主が、ご自分のゆずりの地と民を治めるの君主と

するため、あなたに油を注がれたではありませんか」と語ります（10:1）。

神様はサウロの心を変えて新しくされました（9）。そして、神の霊が彼の上に激しく下り、彼は預言を始めました。

民はギルガルで、主の前に、サウロを王としました（11:15）。

適用：サウロの生い立ちと、サムエルに任命された後の姿を見ると、その容姿、謙遜な態度、新しい心、預言の賜物など、たいへん恵まれた人であることが分かります。

2 サウル王の失敗。

サウル王は、やがて大きな失敗をし、王位から見放されることになります。どうして、そのようなことになったのでしょうか。

（1）サムエルの指示（10:8）。

サムエルはサウロに油を注いだ後に、一つの指示を与えました。「私より先にギルガルに下って行きなさい。私も全焼のいけにえと交わりのいけにえをささげるために、あなたのところへ下って行きます。私があなたのところに着くまで、そこで七日間待たなければなりません。それからあなたがなすべきことを教えます」（10:8）。

この指示は、

- ① サムエルが全焼のいけにえと和解のいけにえをささげる。
- ② 私が着くまで待ちなさい。
- ③ 私がなすべきことをおしえます。

（2）サウロ王の失敗。

この時、イスラエルは、ペリシテ人の攻撃に直面していました。サウルとその子ヨナタンだけが武器を持つイスラエルは（13:22）、戦車3万、騎兵6千、海辺の砂のように多い敵の民を見て危険を感じ、ほら穴、奥まった所、岩間、地下室、水ための中に隠れ、逃げ出す者もいました。サウロに従った者たちも震えていました。

サムエルの到着を待ちましたが、約束の七日が経っても来ません。民はサウロを見捨てて、離れて行こうとしていました。しびれを切らしたサウロは、自分で全焼のいけにえをささげたのです。ささげ終わった時に、サムエルが到着しました。

サムエルは驚き、「あなたはなんということをしたのか」とサウロを叱りました。

すると、サウロは次のように弁明しました。

(11-12)

- ① 民が自分を離れ去って行こうとした。
- ② サムエルが来なかった。
- ③ ペリシテ人が攻撃して来る。
- ④ まだ主に嘆願していない。

(3) あなたは愚かなことをしたものだ (13)。

「愚かなことをしたものだ。あなたは、あなたの神、主が命じた命令を守らなかった。主は今イスラエルにあなたの王国を永遠に確立されたであろうに。しかし、今や、あなたの王国は立たない主はご自分の心にかなう人を求め、主はその人をご自分の民の君主に任命しておられる。主があなたに命じたことを、あなたが守らなかったからだ」 (13・14)

結論

民が王を求め、神は民の求めに聞いてサウロを王としてお立てになりました。しかし、サウロは大きな失敗をしてしまいます。

失敗の原因は何でしょうか。

- ① サムエルの到着を待てなかったこと。
- ② 主の命令よりも自分の判断を優先させたこと。

サウルは、「なすべきことを私が教えます」というサムエルのことばを待つべきだったのです。

どんなに有能な人でも、失敗をします。神の前の失敗は、神のみことばよりも、自分の判断を優先することから起こります。

イエス様のゲッセマネの祈りをもう一度しっかり心に刻みましょう。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください」。

私たちがすべきことは、主のみことばを守ることであって、それを度外視して、こうすれば主はお喜びになるだろうと勝手に判断した行くと、大きな失敗をしてしまいます。

自分のこれまでの道を反省し、悔い改めるべきは、悔い改め、しっかりと主のみことばに従っていきましょう。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださ

ることを信じること。

4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」（ヨハネ第一4：10）

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

（黙示録3：20）

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒の働き16：31))